

令和7年度 努 力 点 推 進 計 画

名古屋市立稲葉地小学校

1 研究主題

自分らしい学びを見つけよう

2 主題について

中央教育審議会答申において、「令和の日本型学校教育」が示され、その中に「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげられると述べられている。

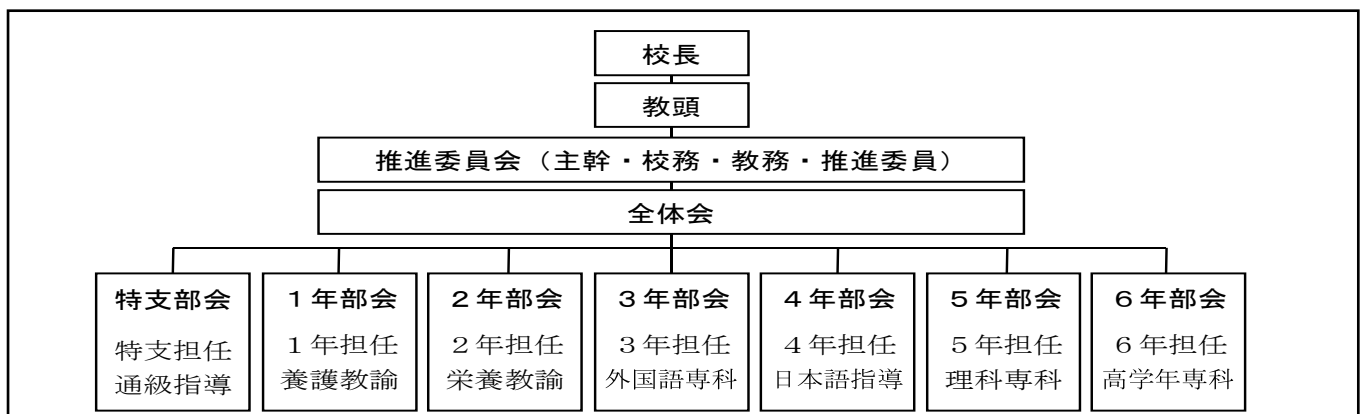
名古屋市では、「ナゴヤ学びのコンパス」として、学びの方針が示され、「子ども中心の学び」を大切にし、ゆるやかな協働性の中で自律して学び続ける子を育成することを目指している。「自律して学び続ける」については、子どもたちが、できるだけ自分に合った学習の進度や学習方法、学習内容を選んだり決めたりできるという意味において、個別に最適化することが大切だと述べられている。「ゆるやかな協働性」については、子どもたちが必要に応じて、仲間や大人の力を借りたり、人に自分の力を貸したりすることが大切だと述べられている。

本校では、昨年度から「自分らしい学びを見つけようー子どもの自己選択を大切にしてい」と題し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指して、学習の進度や学習方法、学習内容を自己選択する場面を取り入れることで、自分に合ったペースや方法で学ぶことができるような授業づくりを行った。しかし、自身で学んだことをより深めることが十分にできたとはいえなかった。これは仲間との学び合いの方法を十分に知らないまま学習したことに起因すると考える。

そこで、今年度は、子どもの自己選択に加え、「学び合い」を十分に進めていけるよう日常的に「話し合い方」の話型を提示し、話し合いの練習を重ねることで、学びを深める「協働的な学び」の実現を目指す。

3 研究の進め方

① 研究組織



- ・ 推進委員会では、研究推進計画の立案や検討、次年度への準備を行う。
- ・ 全体会では、研究主題や研究の進め方について共通理解を図る。
- ・ 学年部会では、授業実践の検討や報告書の作成を行う。

② 推進委員会 (校長、教頭、教務、推進委員長、推進委員)

- ・ 推進委員会では、研究推進計画の立案や検討、次年度への準備を行う。
- ・ 全体会では、研究主題や研究の進め方について共通理解を図る。
- ・ 学年部会では、授業実践の検討や報告書の作成を行う。

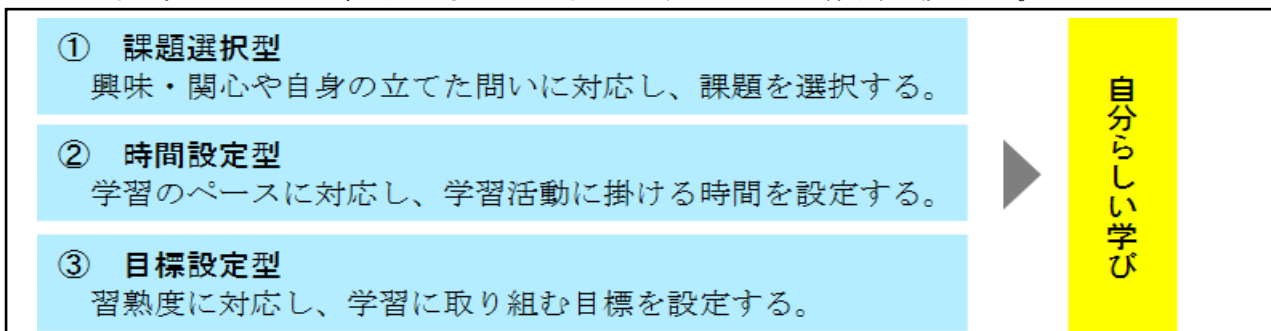
③ 全体会

- ・ 推進委員会からの提案内容について協議し、研究主題や研究の進め方について共通理解を図る。

- ・ 最終報告会（２月）で実践内容を報告し、指導力の向上を図る。

④ 「子どもの自己選択」について

子どもが自分の学習状況や興味・関心に合わせて、必要な課題や学習活動を選択して個別に学習を進めることができるようにする。自己選択の方法について、名古屋市教育センターは、以下の「自由進度学習の『三つの型』」を示しており、これらを参考にしながら、子どもたちに自己選択をさせる機会を設ける。



4 推進計画

① 研究の方法・手立て

- ・ 学年の研究計画の作成
- ・ 子どもが自分らしい学びを見つけることができる授業づくり
- ・ 協働学習で学びが深まる「話し合い」
- ・ 単元を貫く自己選択と振り返り
- ・ 自己選択できる環境づくり
- ・ 学年の報告書の作成

② 授業実践

- ・ 力量向上のため、一人１回、指導案もしくは単元計画表を作成して実践を行う。
- ・ 授業公開については同じ部会の先生は参観する。授業後、学年あるいは参観した人と授業について検討、まとめをし、部会内で次の実践に生かすことができるように共有をする。
- ・ 実践後、実践内容を「学年だより」に記載し、保護者に知らせる。
- ・ 保護者に努力点の取り組みを周知できるよう、６月もしくは１０月の授業参観、学校開放日で努力点に関わる授業を行う。

③ 年間計画

月	主な内容	
4	8日 推進委員会 21日 全体会	研究主題、推進計画の検討 本年度の方針・計画決定
5	1日 学年部会 2日 研究計画提出	目指す児童像の実践時期等の検討 用紙での提出。推進委員長へ
	・ 授業実践	報告会で報告ができるようにするため、事後検討、まとめを学年で行う。
12	・ 学年部会	実践の振り返り、報告書の作成
1	23日 報告書提出	決裁を受けた報告書をデータで提出
2	9日 報告会	実践の成果と課題報告、今後の取り組みについて
3	12日 推進委員会	次年度の方向性を検討